





玄 いる はる に 九 ほ 土 の 五 と 土 ら 五 り 共 ぬ ま る を 五  
 嫌 わ か 九 し 五 た 共 れ た を 五 つ ね な 葉 ら 五 び 五 五

新版

改正

# をきりかへ大成

目 る 聖 の 聖 に 留 く 興 や 聖 ま ま け ま ま い ま は て 五 わ 五  
 録 さ ま ま ゆ え め ま ま し ま ま ひ ま も 五 せ ま ま 直

## 序

古人の或は志を以て成りし事  
 あらば好む事とせしむる事あり  
 事いふ事とせしむる事あり  
 事古にせしむる事あり  
 事ある事とせしむる事あり  
 の事ありとせしむる事あり



一、らんやちあふのよるとさくらぬ  
 ちとせを何とぬれあふのむり  
 ちんひのぬえ人あふせあなり  
 新中一にゆきぬ

後下

新亭

俳諧をむすむ紀綱目大成目録

- ① 俳諧之專 ナ 二百
- ② 俳諧六体 ナ 三
- ③ 俳諧六義 二 丁
- ④ 俳諧諸部之發句 三 丁
- ⑤ 俳諧三平体 七 丁
- ⑥ 俳諧大意 八 丁
- ⑦ 等類差別 十 丁
- ⑧ 發句切字并異切字 十 三
- ⑨ 現在哉 九 丁
- ⑩ 三乃一 八 丁
- ⑪ 年ぬぬのぬ 北 丁
- ⑫ 七りのや 北 丁
- ⑬ 少く留あふ字 北 三
- ⑭ ころよ三字 北 三
- ⑮ 疑字上安下とて留 北 三
- ⑯ 下の向てとめ 北 四



⑤	下の句ふとあ	廿四丁	⑤	はくともり	廿四丁
⑥	又ゆとまり	廿五丁	⑥	とてあえ	廿五丁
⑦	云のそすてあえ	廿六丁	⑦	と極定あえ	廿六丁
⑧	治定とてあえ	廿七丁	⑧	まらん	廿七丁
⑨	治定のり	廿八丁	⑨	あま地え	廿八丁
⑩	八字此所	廿九丁	⑩	一百二のあえ	廿九丁
⑪	指合のあえ	卅丁	⑪	同字別吟	卅丁
⑫	句數并去嫌	卅一丁	⑫	神祇之詞	卅一丁
⑬	非神祇詞	卅二丁	⑬	尺教之詞	卅二丁
⑭	非尺教之詞	卅三丁	⑭	戀之詞	卅三丁

①	非戀詞	卅四丁	①	無常之詞	卅八丁
②	速懐之詞	卅五丁	②	非速懐詞	卅九丁
③	人倫之詞	卅六丁	③	非人倫詞	卅十丁
④	居所之詞	卅七丁	④	非居所詞	卅十一丁
⑤	夜分之詞	卅八丁	⑤	非夜分詞	卅十二丁
⑥	山類之詞	卅九丁	⑥	非山類詞	卅十三丁
⑦	水邊之詞	四十丁	⑦	非水邊詞	卅十四丁
⑧	四季之詞	四十一丁	⑧	面句并裏順奉句	全五丁
⑨	百韻并四角歌仙	全五丁	⑨	臨席覚悟	九十丁
⑩	執筆法様	全十丁			



○さうきうん

下二丁目

○おぼくうん大槩

下全亭

漢和式

- ① 第一唱向之事 辛 二丁目
- ② 二四不同之事 カキ 一丁目
- ③ 四字一平之事 二丁目
- ④ 避下三連之事 二丁目
- ⑤ 平仄起之事 二丁目
- ⑥ 漢和一座法式之事 二丁目
- ⑦ 對句之事 五丁目
- ⑧ 假名書之事 六丁目
- ⑨ 連綿字之事 七丁目
- ⑩ 二物之事 八丁目
- ⑪ 三物之事 九丁目
- ⑫ 朱引之事 十丁目
- ⑬ 文字用の様事 十一丁目
- ⑭ 家書文字之事 十四丁目
- ⑮ 四季文字の事 同亭

① 誦諧之事

奥義抄云カキ誦書能諧者コシキ諧之コト誦ハ妙美之オノ也コト不カ也  
 史記シキ濟セ也コト考物云コト濟セ也コト酒サケ也コト告ツケ成ナ章シヨウ詔ミコトノコト  
 不カ窮キリ竭キリ若シ濟セ也コト吐ツク酒サケ也コト○誦諧乃ノ也コトのりきコトとらコトふコト也コト  
 ちりて皆人ヒト戲言シゴトノコトとあり必しもあらずコト所トコロ好ヨク今イマ案アヒに濟セ  
 也コト道ミチりコトめコトげコトてコトあコトるコトもコト乃ノれコトるコトものコト又マタ能コト諧セハ  
 五道イチノミチ又マタあコトらコトびコト一ヒト妙オノ義コトとコト乃ノびコトるコト所トコロ之コト故コト又マタ是コトとコト諧セ  
 以シテ准シテ其コト類シ無コト稅セウ利リにコトあコトるコトものコトのコト言コト諧セはコトどコトくコト火ヒを  
 毛モウ水スイ母ボのコトひヒさサすス也コト或シハコト程ハジメ云コトありコト妙オノ義コトとコトあコトるコト也コト



此中又みよめ詞よりみよめをいふ

八雲御抄云或は曰俳諧有様之俳諧二詠俳三俳諧四俳  
詠五諧詠一詠一六謎字七空戯八鄙後九担言一担云  
或義俳諧ハ折ものもをいれ程之俳諧ハ俳諧云みよめをいふ  
俳諧ハ和字ハうまばらうまは俳諧ハ心ありまは空をいふ也  
まは程ハうまは俳諧ハ海のうまはうまはうまは其の真義ハ折  
謎字ハまはうまはうまはうまは空戯ハ向ハ戯ハ実ハうまは  
鄙後ハやうまはうまはうまはうまはうまはうまはうまは  
うまはうまはうまはうまはうまはうまはうまはうまは

二 俳諧六作

心非況	みよめ人れむる森のうまは秋の月	
詞非況	乃ど付よみ代より代やがう繩	可全
心利口	肩をまみよめおさういふとん	正考
詞利口	はらふもよまけをまぎんく	利冬
心非況	小傾城ゆさてなぶらん年け暮	其角
詞非況	系法もつた見れ屋小ハ七去法	とん

右六作引寄いづきも真義あり見えあり凡  
詠のうまは六作をいづる事あり我ら好まらば  
ありて他をそはらふまらんと也



三 俳諧六義

八雲出松よ風いろ人寄くささかたはよ風いろあつておき

たゞしかくしあらんよ對して

先いそ人梅を公乃きよあやま

八雲出松賦かう人寄くささかたはよ風いろあつておき  
さらの義んかをうらうらもくささかたはよ風いろあつておき

梅の葉まるとけ空のさうけ 全

八雲出松比まると人寄くささかたはよ風いろあつておき  
よむいそあや

いそめあやんの物たあまもり 妻吟

八雲出松真はた人寄くささかたはよ風いろあつておき  
あつておき

風

賦

比

真

雅

頌

盆のさう月いろあやむ花盛 奉堂

八雲出松推いことさうささかたはよ風いろあつておき  
あつておき

まゐりかきまもりとて 海より

八雲出松よ頌いことさうささかたはよ風いろあつておき  
あつておき

ちやくや小判さうて菊のをれ 其角

四 俳諧諸部發句

神祇

釈教

虫

船更方や宮より神もあつてあつて  
朋水

煤さうてちやくめとて佛うれ  
不卜

糸はさや焼て侍夜の敷き  
尼 芳樹



無常

うき事れおる人もの心秋の蟬

晚山

表傷

かく斗かゝる波やほろいあざ

礫水

拜世

我うらも四十世花の奉りか

和及

進善

さそを海まんとらうともも菊よも

方山

懐旧

よりのやそ押さるる子車もちほさる

後集

述懐

義の山か力やみくして菊をさけ

軒栞

佳移

花路若荷果熟くくべの家花家

知足

名取

山吹やさうて蛙い水の底

鬼貫

名物

かゝるもやみかかかかかかかか

尔云

鑑別

ふ山何よ志見やまきハあかざん

霞岬

擬行

みらもぬぬをの喜や親あさず

暮四

法瀆

月花たれれや海ことあ 銚子

と色紙

身儼

あらしむけ我もさひき秋れれ

全

聖

かぐれや年れれ竹乃すれ法代

哲醉

難

親ハ谷子ハ山名乃家ほとす

正由

文字

破ともふ分と人乃力ハ如

子春

古事

伊勢ゆきや鏡たきうはは

素吟

本鏡

吾も白け下よさくし杜

成之



詩

子妹乃きよいままこてれ月

巨海

歌

いそぎしちりり海さた乃がぼくれ

長之

たこはら〜〜うらちのそ〜これかちたの〜  
田子乃うらちのうらちのそ〜これかちたの〜

離雲

世の中よふらちこそふれちのひかり  
世の中よ身こそあられ麻のしき

常規

おぼろ〜ふらちのそ〜これかちたの〜  
妹ハもの、月夜鳥ハつとをぬく

鬼貫

強詞

ゆく存よあやぐき若どき〜せよ

似空

小奇

勢ふまのちやう流乃のあ車

一幽

狂云

比良三上雲山〜〜せせせれ櫓

をを

難読海歌

井は葉乃みされ安〜や雷れくれ

かく

仁心

きやうあれとそおなきと出乃と

おぼろ

聴望

晴をいそ筆は笔はうや雲乃存

ふま

秀句

何う〜〜かう〜〜のそれ酒

正由

まろ

乃そまむ〜〜す雲れ如れ乃白ひ

貞隆

たふ

々乃月綿〜〜扱〜〜糸碗〜糸

奉堂

見よ

毛家尾れ〜〜山巴や雲乃犬

鞭石

去を

けくま〜〜てゆも乃ひまの蓮〜ひ

ひま

重羽

住者乃と〜〜く流〜〜三々月

鉄助

たれ

鶯う毒乃と〜〜とふ毒を〜

保了



心能造  
神能造  
心能造  
寤能造  
老能造  
城能造  
盛能造  
感能造  
聚有造

あひかして地ありき柳一の  
梅乃ごきゆりび乃貝や斤抄ひ  
回湯をらやこかんれ出らうき  
月邪ら柳らうれらあまを  
うたぬやんぬられ様か  
傘エが目私を星は  
皇よそとて三月七日八日  
乱が身に秋風定く穂二人  
まのあまをくよとゆふ

戈丸  
琴風  
覺助  
素堂  
色雪  
漢石  
信徳  
杉  
日

あひかして  
かきもの  
あひかして  
あひかして  
あひかして  
あひかして  
あひかして  
あひかして  
あひかして  
あひかして

あひかして地ありき柳一の  
梅乃ごきゆりび乃貝や斤抄ひ  
回湯をらやこかんれ出らうき  
月邪ら柳らうれらあまを  
うたぬやんぬられ様か  
傘エが目私を星は  
皇よそとて三月七日八日  
乱が身に秋風定く穂二人  
まのあまをくよとゆふ

調柳  
西吟  
竹亭  
常矩  
道柯  
如泉  
不角  
琴風  
行步



さよふ成てもほくらちてふか  
あきくふくればぬぐれとく  
鑽乃もて蓮とくふ事あられ  
蓮瓶乃せとい中やもうき葉  
六月や半の雲とく嵐山  
かき若や染れ槽と地と捨小舩  
麦冷し一宿とふとどつう終  
蓮池よ生まれとせれ蛙ふれ  
藥乃隨とか人志とく終

二水  
如扇  
目恍  
助水  
と長  
藻水  
荷等  
言水  
和及

ぬふくたきまき  
三芳乃野ハ花はほこりふあ  
あうくかひひあ  
妹乃若竹やふさじと四ひら  
多んくやきき  
花とくまき風や柳くもの志

作真  
遊人  
秘盛

五 俳諧三十体

鑿去倅 日ふあまのふりやまさく  
行雲 天もむくさるやまけみふ足  
廻雪 月乃相もあふ月ひら  
張橋倅 半の甲子とくふも半内下  
高心 名月や登乃人よまの影

立圃  
凡兆  
其角



遠白 月乃姿を呼りて夢や天付丁 立身  
 澄海 婦よとむむすまはしや後乃城 好史  
 聖徳 世よきて道踏あふやうぶり 友元  
 物教 善徳の母乃を世に傳へまきと 明水  
 不心 花乃中を遠へと遊り浅きう 長次  
 理世 婦風乃吹まらるる人老良 長次  
 狂民 山中や菊の香わたり湯の白み 長風  
 至極 善徳もや世に傳へまきと 暮四  
 麗体 ちるむや現に入る世に傳へまきと

存直 鳴る風虫と花よふ夜夢か 一笑  
 花麗 志る雲とらるるまきの香の物けさ 行亭  
 木作 けりもむらむら乃をけり 常友  
 作伴 里うすそ夕をね乃さうりう風 好史  
 変可 元日や赤いゆりけをりて心 玄来  
 秀逸 唐湯乃香ふむらりねりあて 長次  
 撥群 毛ゆくとらるるむら乃をり乃山 貞室  
 写古 都丹よりあつた夢もあつたらと 来山  
 面白 たりとてい霞まの糸れ夢をさび 長次

の上



一 鶴

寫乃三足よ成て夕うか

人圭

長曲

松崎也日けりよの春月れりや

維舟

豊木

うくもわん藤花咲垣根りか

まを

足様倅

ひりにさす懸るやうりふささ

心査

富士

富士よ入目を夜條やふれ月

其角

強が

何をこそ皮片乃入日人たり

鬼貫

強が

あを伐て投ゆらうやふれ月

明水

三 詠諧大意

詠諧乃句とり家以志なくありやうり今右の作とて

つと用也下一此ららる海らひのうりか知やうりもや  
なと詠ありと野控ゆるべ一うく發し後字詠詠諧也  
又連詠两用乃詠といふも或ハ九松屏風詩候やと  
いふ家詠連うもなる詠者方うも用る但しあう  
とめるめも蝶菊やう其方詠ありべからん方う  
あうへ一結ふゆり歌う結るる云無ありやも  
連の例なく、俳乃あはらからん一或ハたうき  
ふまのあふたうら結ぶるおとじらんこれあは  
うあ事一字詠云まどつひく人あうりまうら











つうぐいせつと虎と虎を虎と虎と

又

虎は尾の毛をひらきし虎堂

お毒やにひらきし虎堂

おれ白きもの虎と虎と虎と虎と虎と

八鶴の虎と虎と虎と虎と虎と

虎は毒の毒乃白と虎と虎と

つうぐいせつと虎と虎と虎と

作若れちうぐいせつと虎と虎と

乃若れ人のたぬ虎と虎と虎と  
虎と虎と虎と虎と虎と虎と  
虎と虎と虎と虎と虎と虎と  
虎と虎と虎と虎と虎と虎と

虎と虎と虎と虎と虎と

虎と虎と虎と虎と虎と

虎と虎と虎と虎と虎と虎と

虎と虎と虎と虎と虎と虎と

其語謂之換骨カクボウ虎と虎と虎と

虎と虎と虎と虎と虎と

虎

虎



は門を躍し中をさす山から  
こはるふ心かしく初春別乃相よき相操其喜形  
客之謂之集胎はとりぬちうくやゆらん

⑤ 交の切字

信徳 高堂 湖春 林下 一言  
信徳 高堂 湖春 林下 一言  
信徳 高堂 湖春 林下 一言  
信徳 高堂 湖春 林下 一言  
信徳 高堂 湖春 林下 一言

知足 信正 一鉄 言水 栢雨 高政 同也 如琴  
知足 信正 一鉄 言水 栢雨 高政 同也 如琴  
知足 信正 一鉄 言水 栢雨 高政 同也 如琴  
知足 信正 一鉄 言水 栢雨 高政 同也 如琴  
知足 信正 一鉄 言水 栢雨 高政 同也 如琴

〇上



りり 大乃れ水乃く人とあるぬり  
 いまのまのこまう空り不板の冥  
 道なきとびもさうもかろくあり  
 為のふ相乃葉のりいひとま  
 本係 襖 常まふもはは様あり  
 冬がま人は井茶のりうのなまは  
 羅も折又のちもをたはせへり  
 花のくんとく人ゆりドセ感り  
 何ものりーわくは艶袋裏りく人  
 東海 竹翁 文鏡 野水 桐葉 山 竹亭 荷翠 和之

あり 花有て大乃れくくぬらあり  
 けが碑とく登ふてゆはし地の花  
 くるくくるおよあるとりのまはあり  
 行女みくろりかろく一侍くあり  
 般商者呼よけきめりくくあり  
 世先て魚乃骨撰のくぞ生足魂  
 唐乃若也はらぞまきり う八  
 常矩 松笛 土芝 軒柵 運達 方心 嵐老 西文 喜年



あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水

あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水
鶴	扇	森	徳	行	籠	い	何	水	水

〇止

〇止



きぞ  
い  
きれ  
きう  
きぞ  
かも  
い  
きぞ  
きぞ

人かたからしるすもあはれ  
みどりさむいづれをさる人れま乃暮  
ぬふれ本條あはれ秋乃あは  
色まぬはれう遊んまはれ  
かか居りて石あはれま初さる  
紫刈てわがかもさる寸雪は嵐  
あが去よらう花とて麦一穂  
ほはゆが祇軍清水はむ乃去  
ふはれきむはあふ考きるるは母  
葎水  
其角  
尚白  
清三  
常牧  
明水  
玄察  
李吟  
軒柵

い  
よ  
ぬ  
え

いづれはくたあかふまはれ所ま  
月いづれ店沢酒よつおうき  
白魚は餅よあはれお水乃あは  
みさるあはれくはあはれ  
蓮葉は夏まはれかあはれはれ  
内意へまはれまはれぬ高蒲賣  
右足は長は四十に足と踏くぬ  
乃ら鞭りてまはれ極狩  
鳴麻とさかしくりまがうはれ  
芭蕉  
ゆ伴  
貞隆  
幸花  
山店  
木雙  
荒雪  
松木  
忠雪

〇正

〇六



や

こゝにや<sup>一</sup>紅牡丹乃<sup>二</sup>氣<sup>三</sup>あ<sup>四</sup>て<sup>五</sup>こ<sup>六</sup>こ  
 と<sup>一</sup>く<sup>二</sup>や<sup>三</sup>み<sup>四</sup>そ<sup>五</sup>と<sup>六</sup>さ<sup>七</sup>賣<sup>八</sup>れ<sup>九</sup>と<sup>一〇</sup>い<sup>一一</sup>ま<sup>一二</sup>え  
 水<sup>一</sup>と<sup>二</sup>や<sup>三</sup>蜂<sup>四</sup>色<sup>五</sup>雀<sup>六</sup>も<sup>七</sup>め<sup>八</sup>く<sup>九</sup>り<sup>一〇</sup>ど  
 花<sup>一</sup>多<sup>二</sup>れ<sup>三</sup>や<sup>四</sup>お<sup>五</sup>よ<sup>六</sup>す<sup>七</sup>く<sup>八</sup>人<sup>九</sup>ま<sup>一〇</sup>か<sup>一一</sup>ぬ<sup>一二</sup>人  
 夜<sup>一</sup>露<sup>二</sup>や<sup>三</sup>と<sup>四</sup>ま<sup>五</sup>り<sup>六</sup>あ<sup>七</sup>り<sup>八</sup>ま<sup>九</sup>て<sup>一〇</sup>初<sup>一一</sup>雨  
 白<sup>一</sup>雪<sup>二</sup>乃<sup>三</sup>き<sup>四</sup>る<sup>五</sup>の<sup>六</sup>や<sup>七</sup>月<sup>八</sup>お<sup>九</sup>く<sup>一〇</sup>り<sup>一一</sup>ぬ<sup>一二</sup>心  
 家<sup>一</sup>の<sup>二</sup>あ<sup>三</sup>ち<sup>四</sup>り<sup>五</sup>り<sup>六</sup>や<sup>七</sup>め<sup>八</sup>く<sup>九</sup>て<sup>一〇</sup>菊<sup>一一</sup>島  
 乃<sup>一</sup>こ<sup>二</sup>る<sup>三</sup>葉<sup>四</sup>も<sup>五</sup>残<sup>六</sup>り<sup>七</sup>と<sup>八</sup>ら<sup>九</sup>ん<sup>一〇</sup>や<sup>一一</sup>梅<sup>一二</sup>の<sup>一三</sup>心  
 如<sup>一</sup>生  
 軒<sup>二</sup>栞  
 梵<sup>三</sup>外  
 随<sup>四</sup>交  
 不<sup>五</sup>及  
 其<sup>六</sup>角  
 梅<sup>七</sup>氏  
 文<sup>八</sup>元

下知

ゆせてあうへあまよ

う<sup>一</sup>は<sup>二</sup>あ<sup>三</sup>ら<sup>四</sup>る<sup>五</sup>心<sup>六</sup>あ<sup>七</sup>ら<sup>八</sup>う<sup>九</sup>と<sup>一〇</sup>ん<sup>一一</sup>見<sup>一二</sup>る<sup>一三</sup>の<sup>一四</sup>神<sup>一五</sup>の<sup>一六</sup>心  
 心<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>三</sup>る<sup>四</sup>を<sup>五</sup>定<sup>六</sup>電<sup>七</sup>は<sup>八</sup>れ<sup>九</sup>芳<sup>一〇</sup>野<sup>一一</sup>心  
 妙<sup>一</sup>子<sup>二</sup>み<sup>三</sup>た<sup>四</sup>ら<sup>五</sup>う<sup>六</sup>と<sup>七</sup>あ<sup>八</sup>ま<sup>九</sup>の<sup>一〇</sup>が<sup>一一</sup>ぬ<sup>一二</sup>け<sup>一三</sup>さ  
 帝<sup>一</sup>位<sup>二</sup>と<sup>三</sup>あ<sup>四</sup>ま<sup>五</sup>ま<sup>六</sup>ひ<sup>七</sup>あ<sup>八</sup>へ<sup>九</sup>廉<sup>一〇</sup>め<sup>一一</sup>の<sup>一二</sup>心  
 ち<sup>一</sup>く<sup>二</sup>決<sup>三</sup>け<sup>四</sup>と<sup>五</sup>き<sup>六</sup>ら<sup>七</sup>り<sup>八</sup>あ<sup>九</sup>ら<sup>一〇</sup>む<sup>一一</sup>風  
 け<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>て<sup>三</sup>ゆ<sup>四</sup>あ<sup>五</sup>ま<sup>六</sup>あ<sup>七</sup>り<sup>八</sup>が<sup>九</sup>め<sup>一〇</sup>人<sup>一一</sup>か<sup>一二</sup>か<sup>一三</sup>と  
 う<sup>一</sup>こ<sup>二</sup>に<sup>三</sup>ま<sup>四</sup>て<sup>五</sup>む<sup>六</sup>ら<sup>七</sup>り<sup>八</sup>か<sup>九</sup>人<sup>一〇</sup>代<sup>一一</sup>仁<sup>一二</sup>王<sup>一三</sup>門  
 心<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>三</sup>る<sup>四</sup>た<sup>五</sup>廓<sup>六</sup>又<sup>七</sup>か<sup>八</sup>ら<sup>九</sup>あ<sup>一〇</sup>ら<sup>一一</sup>あり  
 唐<sup>一</sup>詩<sup>二</sup>乃<sup>三</sup>ま<sup>四</sup>る<sup>五</sup>あ<sup>六</sup>ら<sup>七</sup>め<sup>八</sup>が<sup>九</sup>く<sup>一〇</sup>あ<sup>一一</sup>ら<sup>一二</sup>ん  
 森<sup>一</sup>林  
 我<sup>二</sup>思  
 正<sup>三</sup>時  
 如<sup>四</sup>泉  
 道<sup>五</sup>柳  
 彫<sup>六</sup>堂  
 竹<sup>七</sup>亭  
 竹<sup>八</sup>翁  
 玄<sup>九</sup>系

〇止

〇止



れあもてしんがく一又ひらて切字に身ひくさるる  
但黄風のひらもとておまひのぬき一かぬのたの仍思

二字切

目と書ぬくやまよ乃ま女七夕

風虎

ほもし何笑とましくんニツ星

風山

三字切

うぐみよ何乃まもあ梅乃花

貞室

○六とほり一乃切字

花西本ハこととも踏と花乃雪

玉雪

葉よ少く福乃あゆると門の妻

一春

○とよ切字と直て下と哉留

煤やとくくめどれ京乃きれが

梅洞

傳よ云後一まする五文字をれとよ切字ありてかとまらと

○くり留

花多の茶座もむる人お成よけり

可全

初夜と四のめくそふ様お成よけり

来心

傳よ七文字并終とよと押らひハ多のまきす程は更有り

○三名切

月多の茶座もまふとくまの初鑑

素堂

三夜切ともくり



○大由り  
うらまて。天は来る。昔より一史 虎海  
うらまて。昔より一史より一史

○玄妙切

鴨ふちぬハコを鷹や切取しん 林園  
ねらふ乃きしひ三世を念をこむ。ねらふは鷹ゆり  
初めの輩トキもたふ事しふ。あしぬく

○切字のくし可キ有カ別カ白

毛づくことしり。ねらふ事野山 真室

余乃、まひぬ人かくるせも。其角 和及  
懶ヲまててきしゆ。人老乃 蠅 其角

こけくけの切字を別り。事人切取く初ふそ  
まぶこ事。再いゆし

右切字身。大概タリとゆ者ゆり。ねらふは鷹ゆり  
乃切字の切字ことく。あしぬく。あしぬく。あしぬく  
白と見ゆ。まひぬ。まひぬ。まひぬ

あしぬく。あしぬく。あしぬく。あしぬく。あしぬく  
あしぬく。あしぬく。あしぬく。あしぬく。あしぬく  
あしぬく。あしぬく。あしぬく。あしぬく。あしぬく







乃けしれどしとまふもやとまふぬまて切せゆら  
文にぬし初まじし声はなりて早ぬもふらぬ  
よも成事なり

乃ぬまえぬもれぬまてぬ ああぬ

まへげせていぬれまうはばさあぬ乃まら  
くまらとまらぬらばさあぬまらまら

①七のわらわ弟

日あいのち ちやむ古用もさく清くまら

此のちあむらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

てまらぬまらぬまらぬ

切や お猶の徳やまらぬまらぬまらぬ

此やまらぬまらぬまらぬまらぬ

控や お泉のち月乃まらぬまらぬ

疑乃や ちのちや室うまらぬまらぬ

此やまらぬまらぬまらぬまらぬ

あやあまらぬまらぬまらぬまらぬ

くらとまらぬまらぬ

中乃や 雪とあ樞や樞りあみえて







も  
何夏の道は行くもはたさるるも  
か  
か  
都は徳とて今も不自由を  
ま

此の又

教生今殊々名海なるを教して  
信をたすむに教生舎りては字とひりて  
ま  
二所<sup>カ</sup>抱<sup>カ</sup>ては心もあつ

実植とて花とていふは余りかへ

又そのしむはとていふは字とひりて  
あつては心もあつて  
うやの<sup>キ</sup>虚<sup>キ</sup>はあつては心もあつて  
ては心もあつて

①引のふりの字と押字

よ  
魚乃名と何ぞとては心もあつて  
ま  
戸<sup>キ</sup>際<sup>キ</sup>はまらりて  
ま  
ま  
ま

四

四







① 土留

まゝあつたをと猪乃すまは  
らるはばあつたりとむらりて多  
蔵危杖ありりせは  
下なるはあつたもあつたは  
とあつたもあつたもあつたも  
佛あつたもあつたもあつたも  
あつたもあつたもあつたもあつたも  
あつたもあつたもあつたもあつたも

② 土留

うすむふぬ川すまう

まゝあつたもあつたもあつたも  
小椋あつたもあつたもあつたも  
門徒あつたもあつたもあつたも  
伏見あつたもあつたもあつたも  
まゝあつたもあつたもあつたも  
あつたもあつたもあつたもあつたも  
あつたもあつたもあつたもあつたも  
あつたもあつたもあつたもあつたも

FD

FD



ろ

丸を好幾放り 10分も

たういぢやうとそとあさるかり又けりてえ  
留しる剣をかりしつゝかかちかして念むハ  
ヤカじまーと也

① 大いそとらしていけせいでぬえがれとあさし

筆くしてかき袖とけりてかき

膝とけりてけりて森耳のあさし

炭取しを煙とくして

言は葉よ骨<sup>ホネ</sup>おしぬれりぬぬ

ねてせけ

れりへ

徳めれとけり人をもやま

親乃めるうらり人けむあか

筆<sup>ヒツ</sup>ぬりてぬる西月をやりぬ

こけ外あよちのあかんとあさしあさしあさし

まをぬりてぬる西月をやりぬ

① 丸のひ乃とぬる葉

伽藍とめて侍とてあさしあさし

塔風よ何直煙しる強乃まのり

とんぬりてぬる西月をやりぬ

十九  
十八  
十六

傳  
丸



十五 枕しそハ事おあひらりる ね

⑨とね家

私云らんとうらんおにぞかかをいひま  
いしおきかひらんをいひしはあま  
とあしき

おど 物らんらんおんぞし独り人

えん りとぬ後これをいれぬかひん

いり 花やあらしきほごるらん

いり 後せよらんらん用ひあらん

や みらんらんや 白髪ぬらん

右あらしきおぼえ及らんらんぬ

白研りてらんらんぬらんぬらんぬ

べんたごらんらんぬのてあそと皆らんぬらん

あかん

⑩洛定らんらんぬ家

ろ 花さびてらんらんぬらんぬらん

を 花乃雪強きらんらんぬらんぬ

を 花乃雪強きらんらんぬらんぬ

〇一

〇二







何人の花よりかたむね  
こころにたてまつるもあはれも  
ゆゑにこそ事あるべし

⑤ 一か二か三か

よきこころをばやせよ  
みづかやふもくさるる  
とくちのちのちのちのち  
他人のちのちのちのち  
己のちのちのちのち

と下お遠一白三三

⑥ 下お白二五白三三

あつちのちのちのち  
みづかやふもくさるる  
こころにたてまつるもあはれも  
ゆゑにこそ事あるべし  
あつちのちのちのち  
みづかやふもくさるる  
こころにたてまつるもあはれも  
ゆゑにこそ事あるべし















三言 藻

三言 藻の類は魚類に属す

二言 生類

二言 生類は動物に属す

二言 植物

二言 植物は草木に属す

二言 名所

二言 名所は地名に属す

二言 状分

二言 状分は形容詞に属す

二言 陰物

二言 陰物は陰性名詞に属す

二言 陽物

二言 陽物は陽性名詞に属す

三言 生類

三言 生類は動物に属す

三言 植物

三言 植物は草木に属す

三言 衣類

三言 衣類は衣服に属す

二言 固名

二言 固名は固有名詞に属す

二言 天象

二言 天象は自然現象に属す

四 神祇之綱

大掌會

新掌會

日蔭のて 見張り

宮居

法 荒法

法 荒法

名 居

名 居

丸本 井

玉垣

行

行

拜殿

拜殿

行

行

長安

長安

行

行

御後

御後

行

行

止

止















新杖 新杖 新杖

傾城 傾城 傾城

後家 後家 後家

揚名 揚名 揚名

小姓 小姓 小姓

女 女 女

密言 密言 密言

羞言 羞言 羞言

私言 私言 私言

私語 私語 私語

人目 人目 人目

名乃 名乃 名乃

侍 侍 侍

下侍 下侍 下侍

後 後 後

石 石 石

密言 密言 密言

羞言 羞言 羞言

私言 私言 私言

私語 私語 私語

人目 人目 人目

名乃 名乃 名乃

侍 侍 侍

下侍 下侍 下侍

後 後 後

石 石 石

石 石 石











古家其日也 捐切不仕令 継子寡 乞食  
世於人 後世 借法 年忌 月忌 遠忌

平 非 速 懐 綱

物 弱 炭 賣 弱 賤 窮 賤 愚 耐 瘡 疔

整 身 安 病 蛇 草 乃 庵 柴 の 戸

里 人 備 之 詞

雲 乃 上 人 殿 之 人 魁 士 侍 兵 郎 等 養 者 使 者

醫師 師の侍のつ 佛師 繪師 鈔師 儒者 者は

侍者 僧は師の伏 農人 商人 職人 職人

表通 伶人 養者 羽姥 穴人 伯子 子

馬子 番古 捕人 舟人 桂女 身我 獨

月 花のあし 月 亭主 兄弟 姉妹 海士 民

媛 冥字 粗人 御乳 母人 衆 推 雁 雁

藝 女 盜 賊 海 強 盜 稱 宜 神 若 君



























其度は宗匠に随ひて用はるるものありて殊に備ふ玉  
 ておろけくはるる者ありて是れ其意なり  
 かきつるもの書きておきておきておきておきておきておきて  
 ては遠くへくはるるものありて是れ其意なり  
 おおきくはるるものありて是れ其意なり  
 おおきくはるるものありて是れ其意なり

至四季之朔

春

青陽 青帝 陽春 蒼昊 東君 詔光

正月

上陽 孟春 其正 日月 初月 初月 初月

正月の初日ゆきしりふ故はしりふ月ともいひたりしれを  
 てむ月ともいひたりしれを乃後十五日雨乃節は初日  
 寅乃初日ゆきしりふ其故はしりふ乃月ともいひたりし  
 正月とては正とていひたり

元月

上同 年改 鷄旦 蒼昊 蒼昊 蒼昊

元月の初日ゆきしりふ其故はしりふ乃月ともいひたりし  
 元月の初日ゆきしりふ其故はしりふ乃月ともいひたりし  
 元月の初日ゆきしりふ其故はしりふ乃月ともいひたりし















白馬節會 七日 あそび 七日正月 靈辰日 イレニ

人日 ヒトノヒ 人と帳 ヒトノトシ 七日 ヒトノヒ 菜橋河神 ナハシカハ

事 シ 箕尾富実 ヒノノリトミノキ 七日 ヒノノリ 玄院御修治宿直人 ソノノリ

御齋 ミイ 女叙後 メノシゴト 八日 メノシゴト 女王緑と終人 メノシゴト

大元師 オホノシ 常陸常乃神事 トコノシ 十日 トコノシ 鹿嶋乃 カシマノ

除月 ノゾク 十日 ノゾク 夷 ヒノ 帳周 ヒノ 十日 ヒノ 縣召乃 ヒノ

御齋 ミイ 論義 ロノギ 十四日 ロノギ 男端款 オノヘ 十四日 オノヘ 三迷 ミヤミ

上元日 ウヘノヒ 御新 ミカテ 十五日 ミカテ 花炮 ハナウタ 十五日 ハナウタ 唐火 カラビ

御齋 ミイ 師子 シシノ 十六日 シシノ 賭弓 カシ 十八日 カシ 厄神 ヤクシ

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン

小豆粥 アヅキカ 同日 アヅキカ 厄神 ヤクシ 十九日 ヤクシ 蓮民 レンミン



吉田清稜 十九日 具足以後

二十日正月 九日 煎餅と漿

伊都波鴻

祭 下五日 内宴 十日 餅

外記乃収拾 五日 柳忌 福寿草 九日 草

節振舞 東風 氷中くさ

凍くくれ 魚水よりなる 氷具俵

常山くさ 雪汁 残者

雨氷乃節 氷魚と祭 水鳥轉

本日の下ゆえ 莖立 鶯菜 水入菜

みみ草 野菊 菝菹

梅 根白草 茨子けり

紫 野大根 梅 水

香薷 玉柳 朱柳 岩柳

川柳 岩柳 泉鳥

鶯 百千鳥



木地燧録

依保非

乃ざの

同くう

同

ぬめらひ

河還

ぬま系

飯室

万々樂

春鳥羽

梅ぐえう

大芥

子月夜

松乃花

みどり

みみ

十カウ

霞

ハ重産

虎乃衣

あま油

あま油

一くん

白魚

白魚

下緒

主同昔

おどろり

白魚

白魚

下緒

主同昔

雲乃天

霞乃崎

山椒乃枝

野老

野老

野老

二月

仲去 夾後

妙見月

小春生月

陽中

初午

初午

中和節

二月

執事節

二月

初午

初午

初午

東福寺

水間寺

初午

本妙寺

本妙寺

本妙寺

系 初午

欽生子

乃真

乃真

乃真

乃真

釋奠

春日祭

上申日

園井

韓神

韓神

韓神

系 上申日

大原野系

上郊日

祈年祭

祈年祭

祈年祭

祈年祭

度乃外

綫園

八講

列見

列見

列見

云綿糸

吉野

乃保

乃保

乃保

乃保











三月

你生を又月はくら月まおと月まきま善澤  
孝善美 中姑 古洗 宿月 嘉月 亥死

己乃月はくらく 乃くくワさくくや今ハ三月三日と用て己月と用

次上竹をくく 己乃日陰御所子お侍を以て較るや 曲水社安

盆とあはれめらう共 桃送乃節 三日桃乃酒を解 蓬餅

油花下 二月 三月 此ハ八舞社とて曲とはあ 御中へひくくあ

夜の更女毎事する御を まるくを多せ 御地と北斗

薬師寺に最勝會日 石法水法海乃祭 中此年乃日

法花家 三月 此ハまむあくあ夜非 多あし今あやカシラウ

長明の節乃カラモ、カシラウ、カシラウ、カシラウ、カシラウ

まの二更くま 杏子粥を食ふ 菓乃糕 毛もカシラウ

喜飢 鞆乃裁 半仙のヨコニ 法明乃節 三月

捨柳乃火とあ 毛もま念 住吉塩子 去佐海又祝

石取 同日塩イニキ 栗汁祭 日一祭寺祭 五日多

泉涌寺に完心忌 八日 水尾祭 九日 高雄法苑 十日

安良む 同日吉野式 十日 礼拜講 十二日 祇園一切

經會 十五日 比良祭 十五日 壬生念佛 十五日 廿四日生







花の波 花の鈴 花鳥 花乃元之  
むね白ひ 花乃元之 花の鈴 花鳥 花乃元之  
 花の海 花の雲 花車 花衣 花四  
花の海 花の雲 花車 花衣 花四  
 花見車 花はくろ 花むさび 花軍  
花見車 花はくろ 花むさび 花軍  
 花の都 花はくろ 花の都 花の都  
花の都 花はくろ 花の都 花の都  
 花の都 花はくろ 花の都 花の都  
花の都 花はくろ 花の都 花の都

花守 利花 花の都 花の都  
花守 利花 花の都 花の都  
 幸夷 花の都 花の都 花の都  
幸夷 花の都 花の都 花の都  
 通茶乃花 花の都 花の都 花の都  
通茶乃花 花の都 花の都 花の都  
 花の都 花の都 花の都 花の都  
花の都 花の都 花の都 花の都  
 花の都 花の都 花の都 花の都  
花の都 花の都 花の都 花の都  
 花の都 花の都 花の都 花の都  
花の都 花の都 花の都 花の都  
 花の都 花の都 花の都 花の都  
花の都 花の都 花の都 花の都























徴丙 黄栌花 五月廿九日  
 虎が洞雨 廿八日  
 祇園は法興洗花  
 中夏生 五月廿九日  
 富士垢雜 蟬乃初聲  
 常春と入 去蔬州  
 藤乃む 藤とく白  
 藤刈舟 萍花 和布所 百合  
 車百合 花乃花 乃るらん花  
 草 四ひくれ 末摘花 紅の 馬れ草花  
 石葛 花葛蒲 金銀花 下野  
 蕙 花前 交刺 朝衣草

慶盆子 本つらとくふつらと  
 天蓼 蚊帳糸  
 妙々もみ乃花 麦飯 子松茸  
 藜花 茄子 早凡 荻蒲  
 菊天乃屯 生胡桃 花板  
 椽 柿の花 葵陽柳乃花 橘  
 種 くらら多し花 麦橘  
 杏子 枇杷 泰山椒 子乙女  
 回可 子苗 青田 回葉

の上

六十四







紙園會

七日 長口終 小まきりふこ 月をと せまふこ二

郭巨山 不登系山 翠峰山 ときま川やま かまきりふこ ちまふこ

ふふ山 白糸天 芦刈山 花笠人山 天神山 二山 若山

ふふ山 後星の寺 社より 心索 糸極の 神楽所 神楽を せ

ちまふこ 同 十日 橋本系山 五まふこ 經山 八まふこ くらんかん

津波系山 十五日 舟打系山 櫻田系山 十日

いづくし 飯系山 十五日 竹生傳系山 十四 江戸山

主系山 十日 榎系山 職法 十七 紙園障子の系山 十一

煮系山 十六日 伊勢系山 十六日 出系山 八日

多まふこ 十六日 志渡寺系山 十日 座敷の系山 十一

富士詣 一日より 糸の市 淨土洗詣 十日より

舞の竹切 九日 志まふこ 十日 橋立系山 十一

天後大神乃 浄核 九日 大坂屋上系山 九日

天後水 五月 浄核 任吉の浄核 同上

浄核 まより 明 折 九日 十二月と 交交

大坂 十日 五後川 ときく 女まふこ 又まふこ

菅貫 十日 菅貫 具より 形代と 後て川一 流を せまふこ







葛根 干飯 明者 炎冷 赤ら 漬 蘇

梅 夜切 梅子 子批 楊梅

梨 林檎 百日紅 梅子 澤

蓮 蓮 蓮 蓮 澤

浮 骨 菱 菱 蒲の穂

休 雲 荒 布 竹乃皮取

齒 齒 鉄 鉄 凌 霄 花

海 草 草 虎 尾 の 花 風 蘭 物 待 草 銀

寶珠 麒麟草 村干 青石

赤草 水 麻 苧 荷 葛 花 綿

乃花 香 薷 散 蒜 乃 根 瓜 瓜 瓜

尺 豆 乃 花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀

乃花 瓢 箆 小 角 豆 ねり 雲 雀



蛸 カハカリ 毛虫 カハカリ 金童子 コガ子ムシ 蝶 フナキ 海月取 ウラゲトル 仲繪友 フナオラス

青釣 サハツル 鯉釣 カワヲツル 海月取 ウラゲトル 仲繪友 フナオラス

ぐ クニクニ 靈乱 カキカワ 掛木白 スミヨシ 藍刈 アイカル 四月 ツキ

楮 カワ 秋乃隣 イナリ 秋乃隣 イナリ 秋乃隣 イナリ

○秋 白藏 ハクザウ 昊天 ヘンテン 金高 キンタカ 明景 メイケイ 爽籟 スウサイ

七月

立秋 タチアキ 初涼 ハツリョウ 新涼 シンリョウ 飢暑 ウツシヨ 秋 アキ

七夕 セツ 七夕 セツ 七夕 セツ 七夕 セツ

葉 イナ 葉 イナ 葉 イナ 葉 イナ

一葉 イツエフ 柳友 ヤナウチ 柳友 ヤナウチ 柳友 ヤナウチ

極揚 キョクヤウ 極揚 キョクヤウ 極揚 キョクヤウ 極揚 キョクヤウ

六日 ムロヒ 七夕 セツ 七夕 セツ 七夕 セツ

早 ハヤ 早 ハヤ 早 ハヤ 早 ハヤ

銀河 ギンガ 銀河 ギンガ 銀河 ギンガ 銀河 ギンガ

星 ホシ 星 ホシ 星 ホシ 星 ホシ

二星 ニホシ 二星 ニホシ 二星 ニホシ 二星 ニホシ



懸りの夜 煮屋は忌キツ 七巧天 秋の夕暮キツ

七箇池 百鬼の他 百鬼の他 百鬼の他

梶乃葉 芋乃葉 秋の風信

七月の御節供 内膳司より

本願寺門跡乃葉 七日

送乃 七日

六道参 八日 東のロツタウ

七夕乃鞠 七日

孟蘭盆 十五日

清水寺千日糸日 十五日

墓さうり 七月 初先祖の墓にまうり

身玉 人の生身玉とていふもの

焼燵灯籠 小町とていふ

加多躍 小町とていふ

火 廿六日 秋の火

盆持法入 十六日 盆持法入

新綿 十六日 盆持法入

盆持法入 十六日 盆持法入

盆持法入 十六日 盆持法入

盆持法入 十六日 盆持法入



こまらりくは出まして人れやうた  
懐安居乃丸 十五日今  
解夏草 芽をついで且載る迄といふは花火 水  
解夏草 芽をついで且載る迄といふは花火 水

くけ草 又稻の草中にも 地差糸 九日 三山わ戸

糸 廿七日みさ山指 徳屋化 唇のふくもゆるくやこ

御具糸は出 十八 相撲 世もまふ

病 ちうち 神のち 考 考れまうき 胸の考

考れ香 稲妻 乃心暑さ

秋風 律乃風 細角 身又入

ひやうく 爽 扇置 糸 杖 草花

ととるへ 女房花 朝靨 夕靨の

突 萩 萩のちき 鹿右考あうま 萩殿

萩は戸替中萩あう 所あり清涼殿の山と 白糸 萩なる液

芭蕉 小車乃花 桔梗 大み草

萩 萩れおき 萩の上風 おや解乃花

花はわりあまごころくしははてらうきぬ 相撲草 仙羽花

わあま 茶師草 観音草 公羽草

社 社







白紙の五帳日 教笑糸十日 けうさる 十一日 京支帳  
六日 乙と撰て

いもろとあ川 十五日 石橋ふお生と云 河野乃

津八樓糸 十五日 志賀八樓糸 十五日 志浦糸 十五日 七門

宇佐宮糸 十五日 桐蔭糸 同日 月 三日月 月廿九 月廿四

月廿九 月廿四 月廿九 月廿四 月廿九 月廿四 月廿九 月廿四

月廿九 月廿四 月廿九 月廿四 月廿九 月廿四 月廿九 月廿四

月廿九 月廿四 月廿九 月廿四 月廿九 月廿四 月廿九 月廿四

名月 廿九日 廿五日 廿九日 廿五日 廿九日 廿五日 廿九日 廿五日

御霊糸 十八日 粟名糸 十八日

後七皮岸 穴ニ 神多れ糸 八月 死活杖乃糸 八月

西院糸 八月 美薩糸 龍田糸 殊のをを深

秋乃糸 中 美蓉 本厚糸 漆乃

花 蒲 菊 薄 東 宇治乃 還 川 萱

花 野 薄 東 宇治乃 還 川 萱











下高野祭 十日 例幣 十日 告相撲會 十三日 住

若本市 十三日 白河祭 十三日 後北名月

十三夜 まめ月 粟月 天馬の業會 十四日 岩倉祭

十九日 小金祭 十五日 幼學子會 三月 粟田口祭

一三祭 同日 神田明神祭 同日 度會新嘗

會 十六日 恩徳祭 同日 山口祭 同日 兵服祭

十八日 安んぬ祭 同日 安利女祭 同日 檜夷

祭 廿日 八幡花乃以 九日 城南寺祭 九日 上毛祭

天王寺法縁灌填 右奈祭 北二牛祭 後祭

天満満流馬 本懐祭 九日 鹿若祭 九日

送髪祭 小山祭 北六日 福五神 祭 九日

祭 九日 津村 野々宮乃別 桂川の御援

定霜乃節 荏蛤とある 糸乃りせ

菊 百美 樽草 大向 碎楊妃 才草 全目貫

代黒菊 まるね 残子菊 十日 九目小袖

女祝 菊 紅葉衣 霜降乃節 九月

菊 重衣 紅葉衣 霜降乃節 九月

七十六







ついでに... 尾花... のあひま... 先や... 草... あり

わさき... 紙... 草... 松... あり

菟豆... 文豆... 油... 草... 松... あり

尾... 紙... 草... 松... あり

紅... 紙... 草... 松... あり

袖... 霜... 露... 霜... あり

秋... 霜... 露... 霜... あり

新... 紙... 草... 松... あり

長... 紙... 草... 松... あり

冬... 紙... 草... 松... あり

冬... 元英... 上天... 玄帝... 律... 檀... 羽... 青

十月... 草... 上... 良... 月... 玄... 帝... 折... 本... 泰... 正

は... 月... を... 律... 月... と... する... 儀... 用... する... 器... 一... 冬... 月... 多... くの... あり

又... 衣... の... 衣... 履... と... する... 儀... あり... 孟... 冬... 乃... 旬... 一... 日... 神... 送... あり



おらひらた 膳槽と食 一日厚く熱燗 進炬炭 燗燗會

最境 一日夜よ都の法人 亥子乃餅 亥及七節 十月

冬立 冬ばき 村場治音 残菊葉 秋片抄花 五日

延てはをふ事 連六尺音十夜乃志仏 十五日と

真福寺法花舎 六日 維广舎 十月 金比野糸土月

御承講 十三日 下元日 十月 水官解厄 十五日

東福寺 廿二日 夷講 九日 大社社事 中

十月 法揚乃大衆会 十四日 燧用 火燈き 用物表

火桶 桑乃切 妙海 夕暮 柳 冬本

此河内 桑乃切 物箱 月好 木枯 冬本

青世 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切

松野乃桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切

桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切

枇杷乃桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切

桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切

桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切 桑乃切







曆 一日 朔旦冬至 十月朔日冬 芝田新入世

一陽乃赤節 十月ハ赤陽ハ四ノ 六宮源ヲ流

履と武家

禊とととと

上卯日大和住吉大社 大原具智と富基木鴨紀伊守

宗像系 上卯 山科系 上巳 平野系 申 春月

系 同日 松本系 同日 當广系 率川系 日 梅

宮系 上卯 高宗系 同日 中山系 日 松尾系 日

大原野系 日 園鞆神系 日 吉原系 申日

日吉系 日 殿上源 碎 日 将乃使 日 五節 日 長耳付 日

豊明節 日 中辰日 是ハコトノ 縮と赤又まき

白吉院 日 乃系 中申 加茂院 日 乃系 日 東

三條御神系 日 下卯 里系 日 系 小尾系 日 油

油

油

油

油

油

油







多々千 慕 教訓 華 ぢりけ 為 力 若

意 近 近 也 得 煖 也 宇 甚 也 涼 也 若

初 軒 鈔 厚 靴 松 丈 魚 時 有 多 也

茶 之 入 聖 清 聖 善 兩 聖 河 若 有 湯 湯 也

聯 凍 雪 雷 總 貴 雪 車 又 乃 攝

五月 蠟 月 冷 月 大 宮 極 月 牙 月

乙 亥 朔 日 入 介 乙 子 年 乙 巳 年 乙 未 年

天 智 天 皇 於 濟 國 忘 言

大 神 祭 上 卯 日 四 月 又 也 有 一

御 辨 乃 御 占 奏 又 同 一 月 次 乃 祭 日 今 會

同 日 六 月 正 月 中 事 乃 也 御 佛 名 九 日 也

被 給 又 下 年 日 務 人 乃 也 乃 也 乃 也

御 發 止 乃 也 乃 也 乃 也 乃 也 乃 也

倚 之 乃 也 乃 也 乃 也 乃 也 乃 也

着 跡 乃 也 乃 也 乃 也 乃 也 乃 也

寺 之 灌 頂 十 音 温 糟 粥 八 日 膳 大 德 寺 完 忌 日

寂 勝 日



















べー弟云後より乃長と髪冠をー其中心より  
月れる又二次の後ハ梳き乃ち髪をこぼ其あるは老  
かのみと云ふ

分七のやの子細きて此知りて其れをて事自然

かへー又面の中国字をきくをてあはれにけり

二のすくまをたれきり次世乃西キハのり

裏連終のりりて九のちりキ根尺長をきくは

所後傷何事ともあはれはははははははははははは

と云植物の砂可もたれははははははははははは

かちちとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
其れ中へそとれとてとてとてとてとてとてとて  
そは付白くはる人味也

裏初乃れれとてとてとてとてとてとてとてとて

奉り付白くはる人味也

とて乃れれとてとてとてとてとてとてとてとて

白くはる人味也

前三折乃れれとてとてとてとてとてとてとてとて

かたれとてとてとてとてとてとてとてとてとて

の比上

の比上











園物筆法は様

正末度よく貴人宗道跡あが今世の心死侍を万活  
くろひうのど孔して整えく其意にまへく一々の現は  
貴方美人お人あまのかりやあま方よりかへく一若くして  
扇をぬき我はたかくこれ何とわく動して祝とまおあ  
蓋とあま水トとあま今とあまきんり中古三五七歳十控  
筆と二爰よりくし結くを凡念文其れ結くく動く後懐紙  
とひうらふ中二敷と又二ひよおて祝と蓋又入て床なを凡  
原如女中あまはまきく一筆下二

一 襦袢は長短めもなほも人御あうて中古三五七歳十控

どち乃腰衣まきく一上より下御細く中古三五七歳十控

考は美人乃御あうてひうらもは様又長き中古三五七歳十控

一 懐帛とけて留他と誹諧之連款と書く一是款は賤者めれ光

考は宗道にむかひそのもいあはれ 衣をぬれをうら痛くして宗道は秀を何

又然納めり何又衣を袖と痛くして名事でもあて下ゆり

考といふあまは又たぶくしと保るうらうらと云ふ衣を長

く懐帛面よりく成るく云と後申者然し

一 屋敷人披肩ヒロウもも申満より打越まで披肩もも



一 此後夫人の二面のみ後交りして度へ一但付直さるる人  
一 弟と云披露する半有まじりてさきと物なうら披露  
ありて一今より其の事とあるは

一 夫人乃所白披露するもあくやごとくねをきて披  
房とて一お人たのむ交りて座と乃人又の事道は良と  
あつて納め<sup>よ</sup>たてをきて披露はひかき

一 夢想の念ひを度るをわき懐帝より今又其れ上は交り  
一 此の事とて一その一此と云懐帝おまてはあつて  
一 所帝とわておまはたて一此と云はるるありあり

一 由りてひのまて披露をたてとて一此と云はるる  
一 此の事とて一此と云懐帝おまてはあつて  
一 服の事とて一此と云懐帝おまてはあつて  
一 此の事とて一此と云懐帝おまてはあつて

一 此の事とて一此と云懐帝おまてはあつて  
一 此の事とて一此と云懐帝おまてはあつて  
一 此の事とて一此と云懐帝おまてはあつて  
一 此の事とて一此と云懐帝おまてはあつて







